

平成18年度 中原区 区民会議 (報告書概要版)

—会議での提案と地域での活動の広がり—

n¹⁸

1



大戸地区すこやか活動での体操



丸子地区すこやか活動での体操

060712 第1回「地域で支える高齢社会」



宮内・中原安全パトロール隊



新城小学校での朝のあいさつ運動

061018 第2回「地域の安全・安心をどう守るか」

2



焼酎の量り売り（ブレーメン商店街）



慶應大学ボランティアサークルによる清掃活動（オズ通り商店街）



慶應大学ボランティアサークルによる寺子屋塾（オズ通り商店街）

070123 第3回「地域の中の商店街」

3 4

070314 第4回「平成18年度の区民会議を振り返って」

■ 中原区区民会議の流れ

1 会議での検討テーマの決定について

委員の地域での日々の活動を通して、また区役所の広報や広聴を通して寄せられたテーマなどの中から、緊急性や重要性を勘案して運営部会において検討し決定する。

2 テーマに関する現状および課題の把握

地域で具体的に行われている取り組みなどを手掛かりに、調査・検討する。また、事務局は地域での取り組みについて会議の資料作成のため、取材（写真・ビデオ）に入る。

3 区民会議での報告

テーマに関する現状と課題について、そのテーマについて取り組みを行っている団体・区民の方から、報告を行う。併せて、取り組みの様子をビデオ映像などで報告する。

4 区民会議での検討

5 地域社会での取り組み

会議での検討を踏まえて、委員および区役所は地域社会での課題解決に向けた取り組みを推進する。

6 市長及び区長への報告

報告：丸子地区すこやか活動推進委員、川崎市社会福祉協議会理事 渡辺政勝氏

大戸地区すこやか活動推進委員、「トロッコ押し手の会」事務局長 三川幸子氏

1 報告・課題提起

- すこやか活動は、介護予防の目的でおおむね中学校区（51区）に一つということで、計画では市全体で60箇所となっている。中原区では中学校が8校あるのに、すこやか活動は2カ所のみである。
- 「トロッコ押し手の会」では、介護予防の部分、介護保険と医療保険がバランスよくいっている部分へ生活支援を行うことを念頭に置いて活動している。
- 地域は休息の場であったり、活動の場、会話の場、子どもやお年寄りの成長の場であったりする。子どもとお年寄りの会話は、親子ではできないきずながつくれたりして、非常にいい感化性がある。これからの社会はこういった点で役に立つのが高齢者で、子どもを指導しようというのではなく、自分の生きがいへつなげていく、役に立っているというのが高齢者にとってとても若々しく表れる。
- 高齢者に住み慣れた街で一人で行動する意識を持ち、気持ちの上で自立してもらいたい。
- 支援活動は、ただではできない。ボランティアだからただということではなく、体を動かしてやってもらったものは量で表してあげたい。絶対に気分だけでは継続できない。



2 意見・提案

- 高齢になっても自立して生活できるよう、近隣との交流をもっと深くしたい。
- 特に一人暮らしで家に閉じこもっている高齢者をいかに地域に出すかを考えなくてはならない。
- 子育てサロンとすこやか活動とを合体して、地域の家族となるような場をつくったらどうか。
- 高齢者のみなさんも若いお母さんも多摩川に一度来て、一緒に仲良く、「とどろき水辺の楽校」を体験活動すれば、いろんな活動が広がっていくのではないかな。

3 地域での活動の広がり

[地域で]

- 「丸子地区すこやか会」を立ち上げた。また、「丸子地区すこやか活動支援推進委員会」を立ち上げ、すこやか活動を支援するボランティアを募集した。（丸子地区）
- 「わたしの町のすこやか活動推進委員会」の立ち上げについて検討を開始。（小杉第1・2地区社会福祉協議会）
- 「小杉地区福祉の心推進実行委員会」を立ち上げ、「福祉の心を共に学び合おう」という講座を開催した。（小杉地区）
- 「とどろき水辺の楽校」や「多摩川とどろき土手の桜を愛する会」で高齢者に参加を呼びかけ。
- 子育てサロンで、地域の引きこもりがちなお年寄りに声をかけ、ボランティア活動を通して元気になってもらった。（大戸地区）

[行政として]

- 「わたしの町のすこやか活動推進委員会」の趣旨を町内会、老人クラブ、地区民生委員児童委員協議会、ボランティア活動団体などに説明し、啓発活動を行った。
- 西丸子小学校区で活動している団体のネットワーク作りを行った。平成19年度に「わたしの町のすこやか活動推進委員会」の活動団体として申請予定。
- 中原区老人クラブの健康づくり活動、地域づくり活動に職員を派遣し、支援を行った。

★区民会議をきっかけに始まった新たな取り組み★★★

★会議をきっかけに第1回目の報告者三川幸子氏と「丸子子育て支援推進委員会」とで関わりを持つようになり、「トロッコ押し手の会 MAMA の会」の活動報告と「地域における子育て支援と関わりについて～共に育ち・役立つボランティアとして～」と題した講演を平成19年2月22日に開催してもらった。
★生富委員（医師）から声かけがあり、子育てサロンの案内チラシを病院の待合室に置いてもらえるようになった。



報告：川崎市立中原小学校校長 白井達夫氏

1 報告・課題提起

- どんなふうにも子どもを守っていくか、一つ目は子ども自身の自ら守る力を育てること、二つ目は学校の敷居を低くし、いろいろな人に学校に入ってもらい、見守ってもらうということ。三つ目として、毎朝生徒と先生とが校門に立ってあいさつ運動を行っている。
- 中原小学校の恵まれた環境として、一つはPTAによるパトロールや子ども110番があること。二つ目は、宮内小学校、宮内中学校との3校で協力して取り組みを行っていること。三つ目に地域教育会議を3校で開催していること。
- 子どもを不審者から守るのに、行き帰りは親が見守り、学校の中では遮断するといったふうにも子どもを大人の手元に引き寄せたまましていると、その子どもを守ることが、実は人と関わりを持つ、人を信じる、愛するといった心情を育て切れないうことにつながるのではないかと。
- あいさつ運動を学校だけでなく地域に広げていくというのは、ご近所づくりだと思っている。
- 子どもを守ることと同時に、子どもを育てることの両立を目指したい。



2 意見・提案

- 見守り活動を、ぜひ町内会にも輪を広げていきたい。
- 地域で叱り育て、地域で活動していくことを心がけて、地域力を高めていくことが大事ではないか。
- 買い物しやすい商店街をつくっていく一環として、安全・安心への取り組みにも積極的に参画していくことが必要。
- 警察とも情報共有して、見守りのポイントを検証したらどうか。
- 武蔵小杉駅周辺の再開発が進んでいる。新旧住民が一致団結して子どもたちを守る活動が必要。

3 地域での活動の広がり

[地域で]

- 安全安心情報交換会で、区民会議での取り組みを紹介した。(井田中学校区地域教育会議主催)
- 「災害時一人も見逃さない運動」として要援護者の災害時安否確認のための資料や「子どもの見守り運動」、安全マップの作成を計画。(小杉町2丁目町会)
- 地域全体の防犯・防火意識の高揚を目的に研修会を開催し、高齢者の見守りネットワーク活動などの活動事例報告を通じて区民への啓発に努めた。(中原区安全・安心まちづくり地域推進協議会)
- 商店街連合会に小学校から寄せられる不審者情報を、商店街会長へ知らせることとした。
- NPO 法人「小杉駅周辺エリアマネジメント」を立ち上げた。安全安心なまちづくりを目指して、新旧住民が協力して地域パトロールなどに取り組んでいきたい。(小杉地区)
- 見守り活動に、老人クラブも参加するようになった。(木月地区)

[行政として]

- 区役所所有の広報車や公用車に青色回転灯を装備し、地域巡回パトロールを開始した。
- 平成19年度中原区協働推進事業にて、青色回転灯を地域での自主防犯パトロールに貸し出す事業を計画。
- 警察官OBの「スクールガードリーダー」2名を配置し、上丸子小学校を拠点に区内小・中学校、高等学校を巡回している。また、地域パトロール隊に対して、見回りのポイントなどの相談や指導を行っている。

★ 藤枝副委員長の協力で、区内全町会に「自転車と共生するまちづくりルール」の回覧を継続実施。

★ 尾澤委員(中原区商店街連合会)と芳賀委員(自転車と共生するまちづくり委員会)とで、新城・武蔵中原駅周辺の放置自転車対策について連携を図っていくことになった。

★ 高島委員(中原区文化協会)と鈴木委員(とどろき水辺の楽校)とで、多摩川渡し舟のイベントを計画。



報告：モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合理事長 伊藤博氏
モトスミ・オズ通り商店街振興組合副理事長 中野勝久氏

1 報告・課題提起

- 商店街で資源回収を行えば、資源の持ち寄りに対してポイントを差し上げることで地域通貨につながり、ひいては商店街の活性化につながる。
- 商店街は、基本的には商店街の会員の会費で成り立っている。安全・安心のまちづくりもお金がかかる。そういう現状があることを認識していただきたい。
- オズ通り商店街では、空き店舗を「街なかボランティア・ピース」とし、慶應大学生と「寺子屋」などの子どもを中心とした異世代間交流事業に平成 14 年から取り組むこととなった。
- 学生と活動しているうちに大学とも連携するようになった。平成 17 年の 1 年間は商学部のゼミと一緒に東急東横線の高架化前後の商店街の変化について調査した。
- 「オズファミリークラブ」を会員制でつくった。携帯電話で空メールを打つとすぐに会員になれる。これを利用して、災害時には、水の供給や炊き出しなどの情報を供給することができる。



2 意見・提案

- 商店街同士が一つになる形でまちとして売り出せば、商店街を市民により大きく PR できると思う。
- 商店街では商品や自転車が路上にはみ出し、歩行者が困惑しているので、協力をお願いしたい。
- 商店街の中に有償でもいいから子どもを預かってくれる場所ができるといいな、と思う。
- 商店街の活性化、また地域住民との連携を保つことについての窓口を各区でつくってほしい。
- 高齢者が買いやすくなる工夫を考えるような話し合いを商店街と町会とでしていきたい。

3 地域での活動の広がり

[地域で]

- 商店街で高齢者の困りごとを支援する事業の研究を始めることとした。(中原区商店街連合会)
- 元住吉周辺の商店街および新丸子駅周辺の商店街と、「自転車と共生するまちづくり推進委員会」とで駅付近の長時間放置自転車対策についてフォーラム開催を検討したい。
- 子育て支援推進実行委員会として、地域の商店主に子育てサロンの案内やボランティア(スタッフ)募集のチラシ、子育て情報紙などの掲示を依頼し、買い物客に広報できるよう検討したい。
- 地域の商店街の会長に第 3 回区民会議の報告をしたところ、1 カ月後、商店街の会館で地域の小学 6 年生の版画展を行うことになった、と会長から案内のチラシをもらった。展覧会に行ってみると、小学生の祖父母まで訪れていて賑わっていた。会長は、これから地域とどう関わりを持ちながら何をしていくか考えている、と話していた。この会議から生まれたものだと思っている。
- 平成 19 年 4 月 1 日、小杉地区、丸子地区の 14 商店街、市民文化団体及び行政がパートナーシップを組み、「丸子・小杉桜まつり」を開催することとなった。

[行政として]

- モトスミ・オズ通り商店街が実施しているメール配信サービスにおいて子育て情報を配信するため、商店街へ区子育て情報ガイドブックや子ネット通信の送付を始めた。
- 「川崎市商店街連絡協議会」において、商店街とチェーン店がお互いに認識を共有し、共に商店街の活性化や地域貢献に取り組んでもらえるよう、区民会議における意見を伝える。
- 商店街が地域の情報交換や交流の場など地域住民の生活を支援する地域コミュニティの核として期待されており、今後区役所としても地域と商店街との連携を一層強化していく。

★行政としてこれから★★★

- ★平成 19 年度中原区協働推進事業において「市民活動支援サイト」を立ち上げ、町会を含む区内市民活動団体の情報交換の場を構築することを計画している。
- ★再開発が進む小杉駅周辺において、新旧住民がともにまちづくりを進められるよう設立した NPO 法人「小杉駅周辺エリアマネジメント」を支援していく。